



## ～ 掲 載 内 容 ～

ページ

### 1 久慈地域の情報

#### ○普及現地情報

・・・1

- ・山形町日野沢地区の「まめぶ」を作ろう～高校生への郷土料理伝承（第1回）開催～
- ・食の匠に学ぶ「いげばっと」～技術研鑽研修会を開催しました～
- ・他地域の事例を学ぼう！～集客力向上視察研修会を開催しました～
- ・「手づくりアイスクリーム」、「麦炊（じょうす）」を作ろう～高校生への郷土料理伝承会（第2回）開催～
- ・高校生が農業現場の視察と体験を通じて農業の楽しさを体感
- ・日本短角種子牛共進会が開催されました
- ・「岩手141号」の第2回現地見学会を開催しました！

### 2 お知らせ

#### ○クマ注意(秋のクマ被害防止キャンペーン)

・・・8

- ・クマによる人身被害防止のため、令和6年9月から11月にかけて、「秋のクマ被害防止キャンペーン」を実施します。

#### ○野生きのこの取扱いについて

・・・10

- ・販売の際は、野生きのこの放射性物質濃度の自主検査をお願いしています。

#### ○農薬管理使用アドバイザー養成研修について

・・・12

- ・まとめて学ぶことが少ない農薬について、この機会に正しい知識を学んでみませんか。（申込書別添）

#### ○農業情報メールサービスの紹介

・・・14

- ・岩手県の農作物技術情報や農村地域などの情報を幅広く提供するメールサービスを行っています。ぜひご活用ください。

#### ○スマート農業技術活用促進法

・・・別添

- ・スマート農業技術について、新たな支援制度がスタートします。

#### ○農業の人材確保セミナーについて(11/13)

・・・別添

- ・経営者として、労務管理や労働力確保について考えてみませんか。

#### ○経営力向上研修会について(11/27)

・・・別添

- ・計数管理や経営継承について、学んでみませんか。

#### ○農業用廃プラスチック回収のお知らせ

・・・別添

- ・12月に農業用廃プラスチックの回収を行います。



## 山形町日野沢地区の「まめぶ」を作ろう ～高校生への郷土料理伝承（第1回）開催～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、久慈地域の食文化を高校生に伝えることを目的に、8月30日、久慈東高校食物系列の3年生9名を対象に、食の匠による高校生への郷土料理伝承会を開催しました。

第1回は、食の匠の小向京子さん（久慈市山形町日野沢地区）を講師として、「まめぶ」を教わりました。まめぶは山形町8地区でそれぞれに特徴があり、日野沢地区のまめぶは砂糖を加えた甘い汁とクルミのみの団子で、めでたいときは繭型にするのが特徴です。

小向さんから、「団子の生地は伸ばしたときに千切れにくいぐらいの柔らかさ」「具材が甘くなり過ぎないように砂糖は最後に加える」など、調理のコツを教わりながらまめぶを作り、実際に口にしました。

生徒からは「これまで作ったまめぶと甘み、汁のトロみが違う。地域による違いを感じられた」「家でも作ってみたい」などの感想が聞かれ、生徒たちにとって地域の食文化を知る貴重な時間となったようでした。

伝承会は全3回で、次回は「手作りアイスクリーム」と「麦炊（じょうす）」（9/13）を予定しています。



小麦団子の生地の厚みや大きさ、形について小向さんの指導を受ける様子。



日野沢の「まめぶ」。小麦団子に黒砂糖を加えずクルミのみで、汁に砂糖を加えるのが特徴。

## 食の匠に学ぶ「いげばっと」 ～技術研鑽研修会を開催しました～

「やませの郷の食の技研究会」（岩手県食の匠 25名・団体で構成）では、8月27日に会員同士の技術研鑽と交流を目的に標記研修会を開催し、久慈管内の食の匠 11名が参加しました。

この研修会は年に一度の恒例行事で、今年は今和5年度に新たに認定された澤口ゆう子さんから、認定料理の「いげばっと」と、地域活動で提供しているりんごゼリーを教わりました。

参加者は、生地の水加減やこね具合、かけ汁の味付けに加え、当日打ったうどんと一晩寝かせたうどんの食べ比べから、「やはり一晩寝かせた方が生地がなじんで滑らかでおいしい」といった声が出されました。

「いげばっと」は、宴会の最後に振舞われた手打ちうどんで、「いげ」が「帰れ」を意味することから、これが出されたら家路に就くことが暗黙の了解だったとのこと。澤口さんの地区の文化についても触れることができました。

研究会では、11月に飲食店等との意見交換会を予定しており、今回の研修会で得た知見や繋がりを、今後の伝承活動に生かしていくものと暗黙の了解をしております。



澤口さん(右)からいげばっとの生地の伸ばし方を教わっている場面



いげばっとには旬の時期に採れた海藻を乗せます

## 他地域の事例を学ぼう！ ～集客力向上視察研修会を開催しました～

久慈地域産直連絡協議会では、産直での集客力向上に向けて、県内他地域の先進事例を学ぶため、9月10日に標記研修会を開催し、会員など関係者27名が参加しました。

今年には奥州市水沢の「産直来夢くん」及び「産直市場あじわいの朝 水沢店」を訪問し、産直の概要や集客力向上のための取組を説明いただきました。参加者は、会員の確保や、より多くの出品確保に向けた取組、コロナ禍の影響等について質問があったほか、店内のテナントや、商品の品揃え・充実・陳列、さらにPOPのデザイン、賑わう様子など、自身の産直に活かせるポイントを探して熱心に見学していました。

個人ではなかなか行くことのない遠方の産直を視察研修し、お客様目線で店舗を見る機会となったことで、それぞれ集客力向上のヒントを得ることができた様子で、今後の産直運営に生かしていただきたいと思えます。



バス車内での閉会式にて普及センターから講評。今回の視察研修を参考によりよい産直運営を目指していきましょう。

## 「手づくりアイスクリーム」、「麦炊（じょうす）」を作ろう ～高校生への郷土料理伝承会（第2回）開催～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、9月13日、久慈東高校食物系列の3年生9名を対象に食の匠による高校生への郷土料理伝承会第2回を開催しました。

今回は、よつば乳製品加工グループ代表の下館つな子さん（洋野町大野）に食の匠認定の特産加工品「手づくりアイスクリーム」と郷土料理「麦炊（じょうす）」を教わりました。「手づくりアイスクリーム」は、かつて生産調整で余剰となった牛乳を活用するため、酪農家女性グループがレシピを考案。一方、「麦炊」は、県北地域に伝わる”麦の雑炊”で、食事やおやつ、こびりとして食されてきたとのこと。

下館さんから「資源が乏しかった時代、食材を無駄にしない工夫から料理が受け継がれてきた」と説明いただきました。生徒は、料理にまつわる郷土の歴史についても理解を深めました。

第3回は「手打ちそば」（11月15日）を予定しています。



下館さんが持参した専用のフリーザーでアイスクリームを冷やしている場面。



手づくりアイスクリーム（左上）は、下館さんがご厚意で持参してくれた地域の工芸品「大野木工」のうつわに盛りつけました。優しい味わいの麦炊（右下）はバターのせのアレンジも美味。

## 《久慈》高校生が農業現場の視察と体験を通じて 農業の楽しさを体感

10月4日に県立久慈東高等学校生（環境緑化系列）を対象とした農業現場視察を開催しました。これは、高校生が久慈地域の農業を理解する機会として、久慈地方農業農村活性化推進協議会が平成26年度から毎年実施しているものです。今年度は3年生5人が参加しました。

普代村の農家では、今年2月末の大雪でハウス5棟が損壊したものの、被害を免れたハウスと夏期露地栽培で、ほうれんそうの出荷を切らさぬ工夫等、生産者としてのご苦労を伺ったほか、地域特産の寒締めほうれんそうの圃場見学と美味しい食べ方を教えていただきました。

久慈市の農家では、品目にピーマンを選んだきっかけやパート雇用での心がけのほか、ご夫婦で仲良く楽しく作業するコツなどを教わり、収穫体験もさせていただきました。

野田村の農家では、ねぎの出荷調製作業と、きゅうりの収穫作業の体験をしました。特にねぎの調製では出荷規格とするまでの機械作業のノウハウ等を経験させていただきました。

視察先の3農家では、実体験を踏まえた農業の大変さと楽しさが共通したお話で、体験を通じて、夏休みはパートに来て、と誘われるなど、生徒たちにとっては今後の進路を考える一助となったようです。

視察の様子はタイムリーにSNSで発信し、楽しく体験する様子などを約4千人の方に閲覧いただき、関心を持っていただきました。



(寒締めほうれんそうの圃場見学)



(ねぎ出荷調製の作業体験)

## 【久慈】日本短角種子牛共進会が開催されました

秋晴れに恵まれた10月18日、久慈市山形町の「旧九戸家畜市場跡地」を会場として九戸地方日本短角種子牛共進会が開催されました。本共進会は、久慈市と新岩手農業協同組合が主催しており、今回で76回を数える、歴史と伝統ある大会です。

生後月齢に応じて区分された3部門に計27頭が出品され、各部門の1位受賞牛の中から、久慈市の柿木敏由貴さんが出品した「たつひかり」号が名誉賞（最優秀賞）を受賞しました。審査員講評では、骨格や体型のスケール感、月齢に応じた良好な発育と強健性等、いずれの出品牛も日本短角種として高い評価を受け、これまでの改良の効果を確認するとともに、増頭に向けた機運の向上が期待されます。

10月23～24日には、短角種生産者の一大イベントである子牛市場が、JA全農いわて中央家畜市場にて開催されます。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、日本短角種の生産振興に取り組んでいきます。



審査の様子

## 「岩手 141 号」の第2回現地見学会を開催しました！

久慈地域の水稲生産者や関係者を対象に、水稲新品種「岩手 141 号」圃場の第2回現地見学会を8月29、30日に開催しました。見学は、久慈市（大川目町、宇部町）、洋野町（阿子木）、野田村（泉沢）に設置したモデル圃場4か所のほか、生育診断圃（洋野町宿戸）の、計5カ所で行い、参加者は計43名でした。

はじめに「岩手 141 号」の特性について、県北農業研究所から説明いただいた後、普及センターから「岩手 141 号」の生育状況や調査結果等を説明しました。また、モデル圃場の生産者から、これまでの生育や管理方法、期待などについてお話しいただきました。

参加者から、「籾が大きく収量が期待できそうだ」や「倒伏に強いので安心して育てられる」といった期待のほか、「いつ試食できるのか」「食味が気になる」などの声が聞かれました。「岩手 141 号」への関心の高まりを感じることができました。

刈取りは9月上旬から始まり、収穫を終えた生産者からは、後日「いわたっこに比べて、収量が多そう」などの感想をいただきました。

普及センターでは、「岩手 141 号」の食味を知ってもらうため、関係機関の協力を得て、水稲生産者等を対象とした試食会を11月下旬に開催する予定です。



ほ場見学の様子



刈取りの様子



《複数人での行動》



《誘引物の撤去・管理》

# クマ注意



《子連れのクマに近づかない》



《ヤブの刈払いの徹底》

# クマに出逢わないために

## 入山する方へ

- ・ 事前に入山地域の**出没情報**や**被害情報**を確認する
- ・ 単独ではなく、**複数で行動**する
- ・ 明け方、夕方の入山を避ける
- ・ **撃退グッズ**（忌避スプレー、鉈など）を携帯する
- ・ 鈴やラジオなど**音の出るもの**を携行する
- ・ 音の届きにくい**悪天候時**や**溪流沿い**などに注意
- ・ クマの**糞**や**足跡**を見たら引き返す

## 農作業をする方へ

- ・ 廃棄野菜や生ごみ、コンポストを適切に管理する
- ・ 周辺のヤブを刈り払い、**見通しの良い環境**を整備する
- ・ **電気柵を設置**し、クマを寄せ付けない対策をする
- ・ 庭先果樹は適期が来たらなるべく**速やかに収穫**する

# クマに出逢ってしまったら

- ・ 走って**逃げない**！背中を見せない！
- ・ **目を離さず**静かにゆっくり後退する
- ・ クマとの間に木や岩を挟むようにする
- ・ 風向きに注意して**撃退スプレー**を使う
- ・ クマが攻撃してきたら両腕で**顔や頭部をカバー**する
- ・ **体を丸く**して地面に伏せて防御する

## 野生きのこを取り扱っている流通関係者の皆さんへ

岩手県では、産地として消費者に安全な農林水産物を提供していく観点から、流通関係者（生産者団体、産地直売所、青果卸売市場）の皆さんに、**野生きのこについて放射性物質濃度の自主検査の実施をお願いしています。**

岩手県では、消費者からの信頼に応え風評被害の発生を防止するため、野生きのこを対象とした放射性物質濃度検査を行っています。

**県が行った精密検査の結果、国の定める基準を超過する放射性物質濃度が検出された場合は、検査をした野生きのこが採取された市町村に対し、全ての種類の野生きのこについて出荷自粛等の要請**を行います。

検査結果は県ホームページ上で公表するとともに、市町村、関係機関及び各報道機関に情報提供を行います。

「野生きのこ放射性物質濃度検査マップ」（以下「野生きのこマップ」という。）には、市町村ごとに、県が行った最も新しい検査の結果を掲載し、検査を行った市町村や出荷制限の対象市町村の状況について分かりやすいように表示しています。**野生きのこマップ等で出荷制限の対象として表示されている市町村においては、販売と採取を控えてください。**

なお、野生きのこについては、同じ市町村内でも採取地等が異なれば、検査結果の状況が異なることがあります。**流通関係者の皆さんにおかれましては、安全な野生きのこの販売に御協力をお願いします。**

### 《 県で行っている 野生きのこ検査 》

#### ① 全市町村検査

県において、県内の全市町村を対象に、各市町村で採取した野生きのこの放射性物質濃度を測定します。

原則として、各市町村年1回、各市町村で一般的に採取される野生きのこ1種類について、ゲルマニウム半導体検出器で精密検査を行います。

#### ② 流通関係者（生産者団体、産地直売所、青果卸売市場）からの依頼に基づく検査

流通関係者が、野生きのこについて、自主的に放射性物質濃度の検査を行った際、もし国の定める基準（100Bq/kg）の1/2以上の値が測定された場合には、県（※）に精密検査の依頼をしてください。

※連絡先： 岩手県農林水産部林業振興課（振興担当） TEL019-629-5775

#### ③ 市町村からの依頼に基づく検査

市町村において地域の住民から依頼を受けて野生きのこ放射性物質濃度の検査等を行った際、国の定める基準の1/2以上の値が検出された場合には、市町村からの依頼に基づき、県で精密検査を行います。

担当： 岩手県復興防災部復興危機管理室（放射線影響対策担当）  
環境生活部県民くらしの安全課（食の安全安心担当）  
農林水産部林業振興課（振興担当）

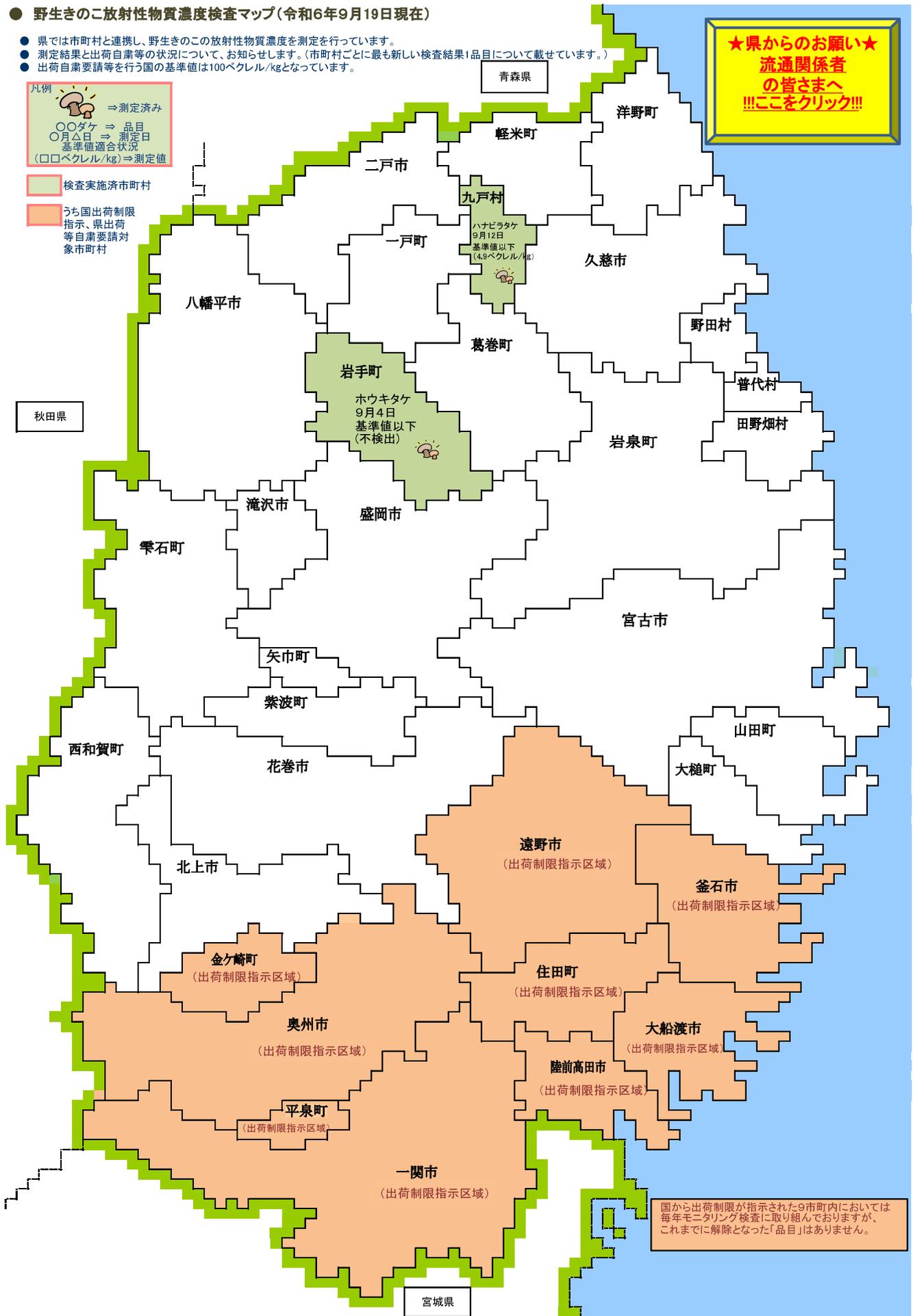
● 野生きのこ放射性物質濃度検査マップ(令和6年9月19日現在)

- 県では市町村と連携し、野生きのこの放射性物質濃度を測定を行っています。
- 測定結果と出荷自粛等の状況について、お知らせします。(市町村ごとに最も新しい検査結果1品目について載せています。)
- 出荷自粛要請等を行う国の基準値は100ベクレル/kgとなっています。

凡例  
 ⇒ 測定済み  
 ○○ダケ ⇒ 品目  
 ○月△日 ⇒ 測定日  
 ○□ベクレル/kg ⇒ 測定値

 検査実施済市町村  
 うち国出荷制限指示、県出荷等自粛要請対象市町村

★県からのお願い★  
 流通関係者の皆さまへ  
 !!!ここをクリック!!!



国から出荷制限が指示された9市町内においては毎年モニタリング検査に取り組んでおりますが、これまでに解除となった「品目」はありません。

## 令和6年度岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修 受講を希望される方へのご案内

久慈市、普代村、洋野町、野田村の農業者で本研修の受講を希望する方は、別添の養成研修受講申込書（様式第1号）に必要事項を記入し、関係書類を添えて、令和6年11月15日（金）（必着）までに久慈農業改良普及センターあて、郵送又は持参により申し込みをしてください（履歴書を添付することからFAXによる申し込みは不可）。

### <提出書類>

- ・様式第1号 養成研修受講申請書
- ・様式第3号 試験免除願出書 ※試験免除該当者のみ提出
- ・参考様式 履歴書 ※市販の履歴書様式でも可

[様式は、岩手県のホームページから入手できます。]

### <申込先及び申込みに関するお問い合わせ先>

久慈農業改良普及センター（担当：山本）

住所 〒028-8042 久慈市八日町1-1 久慈地区合同庁舎4階

電話 0194-53-4989

### <岩手県農薬管理使用アドバイザーに関するお問い合わせ先>

県庁農林水産部農業普及技術課 技術環境担当（宍戸）

電話 019-629-5656

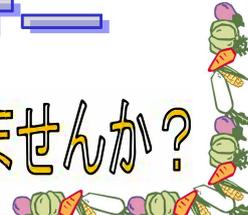


あなたも

# 農薬管理使用アドバイザー



になりませんか？



岩手県では、農薬の安全で適正な使用を普及・推進するため、農薬を取り巻く状況や法律上の扱い等の基本的な知識を、販売者や使用者に周知する機会を提供し、農薬の安全使用・適正管理に関して一定の知識を有する方を「岩手県農薬管理使用アドバイザー」として認定しています。

農薬に関する様々な専門分野について、この機会に正しい知識を学び、あなたも「農薬管理使用アドバイザー」として、地域の人や農薬を購入する人に対して正しく安全な使用方法を広めませんか。

## ★どのような人がなれますか？



**県内に勤務または居住する満18歳以上の方**を対象とします。

これまで、農薬販売者、JA・NOSAI・ゴルフ場・産直組合等の関係者、防除業者、農業者など、**農薬の使用に関わる様々な分野の方**を認定しています。

## ★どうすれば認定されますか？



養成研修受講後の試験で70点以上(100点満点)取得した方が認定されます。なお、薬剤師や防除指導員、農薬安全コンサルタント等の有資格者は試験免除となります。認定期間は、研修受講年度の翌年度の4月1日から3年間となります。

## 【岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修会の開催概要】

### 1 日時、場所

回	月 日	会場	所在地等
第1回	令和7年 1月16日(木)	花巻市文化会館	住所：花巻市若葉町三丁目16番22号 TEL：0198-24-6511
第2回	令和7年 1月22日(水)	岩手産業文化センター ツガワ未来館アピオ	住所：滝沢市砂込389-20 TEL：019-688-2000

※時間は受付：9:00～9:30、研修：9:30～15:50、試験：15:50～16:50 となります。

### 2 お申込み・お問い合わせ

受講には事前申し込みが必要です。県庁農業普及技術課へお問い合わせのうえ、申込書等を入手してお申し込みください。

なお、認定要領や過去の試験問題は県庁のホームページから入手できます。

※ 岩手県HP > 産業・雇用 > 農業 > 農業技術情報 > 農薬及び肥料 > 岩手県農薬管理使用アドバイザー と進んでください。

(問い合わせ先) 岩手県庁 農林水産部 農業普及技術課  
〒020-8570 盛岡市内丸10-1 電話：019-629-5656

## 電子メールを活用した農業情報のサービスを行っています

久慈農業改良普及センターでは、農作物技術情報、台風や気象災害などへの注意情報、病害虫に関する情報、スマート農業に関する情報などをタイムリーに入手することに役立つメール配信をしています。

ご自身のメールから [ce0026@pref.iwate.jp](mailto:ce0026@pref.iwate.jp) (普及センター組織アドレス) まで「氏名」、「住所」、「電話番号」を送信していただければ、いつでも登録できます。登録すれば久慈農業改良普及センター(地域 ML)からだけでなく、県(県 ML)からも情報が配信されます。

【下記からも申込みできます】

これまでに県から配信した内容は、次のような内容です。

- ・農作物技術情報(毎月、号外あり)
- ・農作物病害虫発生予察情報
- ・病害虫防除速報(水稻、野菜、果樹、花きなど)
- ・産地情報 「産地紹介・人物紹介」(毎月)
- ・県からのお知らせ(イベント案内、研修会案内など)



今後も随時、情報発信していきますので、ぜひご利用ください。

## ～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【9～10月分の掲載記事】

- 産地紹介: 《一関》道の駅むろね産直コーナー ～霊峰室根山を望む～  
《盛岡》「下北産直およれんせ」へ急げ! 焼きいも、かきやりんごにきのこまで! 秋の大総力祭開催中!
- 人物紹介: 《宮古》上坂善和さん 笑顔溢れる楽しい農場に!  
《八幡平》人物紹介 JA 新岩手東部 菊池菜織さん

○『普及活動年報』県内各地域の普及センターの取組を紹介します。下記の URL、または右の二次元バーコードからご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html>



## 久慈農業改良普及センターfacebook 公開中!

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。  
下記の URL、または右の二次元バーコードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>

